

【授業科目】 診断・治療学概論      Diagnostics/Therapeutics

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
小林 新	1年次後期	必修	1	30	講義	あり		可
授業概要 (内容と進め方) 及び 課題に対するフィードバック 方法	授業概要/看護学を学修していくすべての過程において必要不可欠である医学的な基本事項と、実際の診断～治療がなされる過程での重要な事項、および診断から治療が行われていくなかで看護が果たすべき役割の概要について、講義を中心にして学習する。 課題に対するフィードバック方法/講義において口頭でコメントする。 *実務経験を持つ教員が授業を進める。							
授業の 位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー②「人間の健康を環境との関係において捉え、地域社会の生活者の視点から看護の役割を考え、実践することができる」の達成に寄与している。							
到達目標 (履修者が 到達すべき 目標)	① 診断学における基本的な知識を修得し、述べることができる。 ② 治療学における基本的な知識を修得し、述べることができる。 ③ 診断～治療の過程をとらえて必要な看護師の役割について述べるができる。							
時間外学習 に必要な 内容・時間	第3回～14回 事前学習：指定の教科書を事前に読んでおく。(各30分) 第15回 第1回～14回までの授業内容の振り返りを行う。(120分) ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間(2単位15回科目の場合：予習+復習4時間/1回)(1単位15回科目の場合：予習+復習1時間/1回)(1単位8回科目の場合：予習+復習4時間/1回)を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。							
授業計画	第1回 診療の流れと問診 第2回 臨床検査 第3回 画像診断装置と画像診断 第4回 放射線診療の有用性と安全性 第5回 薬物療法 第6回 食事療法 第7回 運動療法 第8回 リハビリテーション療法 第9回 放射線療法 第10回 内視鏡的治療 第11回 手術療法 1 第12回 手術療法 2 第13回 手術療法 3 第14回 手術療法 4 第15回 まとめ							全て 小林
評価方法 評価基準	試験(90%)、受講態度(10%)で総合的に評価する。							
教科書	編集：柴 輝男『新体系看護学4 治療法概説』 メヂカルフレンド社			参考書等	なし			
学生への 助言等	看護学を学修するために必要な診断・治療方法の基礎的な事項を学びます。医学・看護学的な“常識”の修得に努めてください。 講義中の飲食・携帯電話の使用・教室の出入りは禁止とします。また、講義中は私語を慎んでください。							